

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を家訓に表している。 家訓 「あるがままに、楽しく、ゆったりと」		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアのなかで、「住み慣れた地域で安心して暮らせる老後を」を実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	常に家族と会話を交わし家族とともに「安心して暮らせる老後」を実践している。地域においても公民館を中心に機会あるごとに啓蒙している。		
	2. 地域との支え合い			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の子ども達が毎日のように遊びに来ており、お花見や夏祭りなどのイベントにも近隣の方に声かけし多数参加頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や地区の運動会への参加をしており、公民館でのすこやかサロン・ふれあいサロンでの交流もおこなっている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的にカンファレンスの場でスタッフ全員が話しあっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己を見直す自己評価と外部からの評価の大切さをカンファレンスの場で互いに話し合い、改善の必要があれば具体的に行動を起こしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「さわやかテラス」での日々の暮らしと現状を報告し、互いに意見を出し合い、出た意見をケアに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護関係は勿論であるが、大きく福祉を考え、介護サービス関係・健康保険関係また生活保護関係等、接触してサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「さわやかテラス」の代表が権利擁護や成年後見人のボランティア団体である、NPO法人「高齢者・障害者安心サポートネット」の理事を勤めており、職員は認知症高齢者を護る勉強を行なっている。そして実際に職員の一人が成年後見人のボランティアを行なっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスにおいて、定期的に研修を行なっている。身体拘束・言葉の拘束・薬の拘束等あってはならないことであり研修を重ねている。		
	4. 理念を実践するための体制			

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に重要事項・契約内容を 書面で示しながら疑問点がなきよう十 分に説明を行なっている。		
----	--	--	--	--

番 号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの申し出は日々の会話のなかで又、入居者の表情から職員が察知するようにしている、そして入居者からの意見や要望は記録に残し、都度介護ケアに反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者各位の暮らしぶり・健康状態は家族の来訪時に報告している、また電話での報告も適宜行なっている。毎日の記録を家族に見ていただいて家族の不安や心配がなきようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは常に対話を持っている、家族からの意見や要望があった段階でケアや運営に反映できるようにしている、意見や要望は相談シートに記載し情報を共有し職員が共通した認識に立って行動できる体制である。また、行政の窓口もお知らせしており家族が気安く意見要望を言えるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見提案があれば代表者や責任者に随時話が出来体制にある、代表や責任者は常に入居者と家族と職員に接触を持っている。職員も代表も責任者もより良いケアを目指しているの、互いの意見は極めて有意義である。よき意見提案は実態に則し反映させている。		

17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	365日24時間ローテーション勤務を組んでいる、入居者の諸変化には、責任者が勤務調整を行い職員の確保は問題なく行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとっては馴染みの職員が一番であるので、その配慮のもと異動を行っている。止むを得ない離職においても最小限に抑える努力をしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢は問わず採用している、未経験者も採用の対象としている。従って「さわやかテラス」の職員は20代30代40代50代にわたっている。職員は地域活動や自己研鑽を自由に行なっている。		

4

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての教育はカンファレンスの場で折に触れ行なっている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社はグループホームを3事業所と小規模多機能施設を運営しているので、教育は4つの事業所を一つと考え年間スケジュールを組み、職員の段階に即して育成研修を行なっている。経験年数に応じたグループの研修・リーダークラスの研修等々などである。また外部講習・講演会なども勤務ローテーションに組み入れ業務として積極的に参		

		加している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には常に参加し地域の他施設との交流を行い、互いの施設訪問や他のグループホームへの体験等も行いサービスの向上に努めている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「さわやかテラス」の代表は管理者や職員とのコミュニケーションを大切にし、管理者もまた職員との対話を重視して、職員はストレスを常に発散できる状況にある。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	賞賛すべき職員の努力や実績は、カンファレンスの場で職員全員に知らしめている、資質が伴えばリーダー・補佐に抜擢する人事制度があり、職員が向上心を持って勤務できる職場である。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたっては、本人の住まいに伺い本人と直接話しをして、本人の思いを聴くことを感じることを重視している、そしてまた本人の歴史を知ることでも本人にとって最良のケアであり、信頼関係を築くスタートとしている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、家族を含めた信頼関係であり、家族とは十分に時間を取り、よく聴き要望や不安の解消に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき当然に必要なとしていることを見極めてアドバイスをを行い、本人にとって最良のサービスを進め対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人そして家族が納得して初めてケアがスタートするものであり、そのために入居の雰囲気が徐々に馴染めるように体験などの工夫もしている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族にはなれないが、限りなく家族に近づけることはできるとの思いから、「一緒に過していく・暮らしを共にする」ということを常に念頭におき支えあう関係を築いている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症のケアは特に家族と共にしていくことが、本人にとって「あるがままに、楽しく、ゆったりと」暮らしていくことにつながる、家族と共にが大切である。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記と同様、本人と家族があつての支援・ケアであることを念頭に、職員は本人と家族のよりよい関係保持への支援を行なっている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人が好みの生活道具は入居時に持ち込みしていただいている、希望される場所へのドライブや馴染みの人の来訪も歓迎している、家族の協力のもと自由に暮らされている。		

33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合わせるように努めている	「さわやかテラス」スタッフの心得の一つに「さりげない気配り・目配り・心配り」を掲げ実践している。孤立や入居者同士の仲たがいの場合も職員がさりげなくその場の雰囲気や和ませ入居者同士の仲を取り持っている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されたご家族と、継続して関係を断ち切らないお付き合いを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
7 35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「さわやかテラス」のスタッフ心得で次のことを掲げている。 ・ 基本は何事も入居者と一緒に、また許可、同意を得ること。 ・ 本人、家族の希望を重視すること このことを行動の指針としている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	このことは、極めて大事なことであり、把握した情報は職員が共有してケアの統一を図り、チームケアに取り組んでいる。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「さわやかテラス」では毎日一人一人の暮らしの把握をするために、1時間毎の過ごし方・心身状態等を記録して入居者のケアに活かしている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			

38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の課題把握とそれに基づいた介護計画を、本人・家族・主治医の意見を反映させた計画書を作成している。計画書は家族に提示している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況変化には、即刻対応し介護計画書も随時見直す体制にある。		
40	○個別の記録と実戦への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目番号37に記載のように、時間を追って記録している、そして職員が情報を共有し介護計画をすすめたり、また見直したりしてその時の状態に応じたケアを実践している。		

8

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは入居が基本であるが、家族の都合で外泊されることもある(自由である)。ドライブやショッピングまた外食も希望通り都度職員で対応している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の希望で文化施設図書館を定期的に利用している。年2回の消防訓練には訓練を通して入居者と消防士とのふれあいもある。民生委員や区長、地域包括支援センターを交えた地域運営推進協議会などで地域資源と協働して		

		いる。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームは入居生活の基本であり、介護保険で利用できる他のサービスを利用されることはないが、好きな趣味をされたり、歌や散歩等々自由に「あるがままに、楽しく、ゆったりと」毎日を過ごされている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度の地域運営推進協議会の席上で地域包括支援センターと話し合いの機会があり権利擁護やケアマネジメント等について協働している。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は本人と家族の希望を大切に、職員が付き添って受診している（家族が付き添われることもある家族の意向どおり対応している）。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	「さわやかテラス」の主治医（提携）と連携を取りながら認知症に関する診断や治療を受けられるように支援体制は整っている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医が提携している訪問看護ステーションがあり、24時間365日体制をとっているため、医師・看護師からの相談・支援は十分に出来ている。		

9

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは	主治医が病院関係者と常に連絡や情報交換が出来る関係にあり、主治医自身も早期退院の姿勢を表明してい		

	は、そうした場合に備えて連携している	るので、過去の入院時においても家族の安心を得られている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「さわやかテラス」は家族の希望において看取りを行っている。主治医は地域在宅医療の専門医であり、家族と主治医と職員の3者で終末期に対応している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に記載のように、終末期ケアは、開所（平成16年12月）以来1人の方の看取りをさせて頂いた。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居・退居に拘らず環境が変わるということは、本人にとって大変不安なことであることを十分認識している、そのため入居退居時は家族とともにダメージ防止に努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを大切にし、訪室時や外出など常に許可・同意を得ている。言葉使いにも敏感に反応されることも念頭におき対応している。守秘義務においては職員に教育周知徹底している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は「スタッフの心得」にある「入居者の話に耳を傾けること」「入居者の言動に目を配り、本当に言うとされていることに視線を落とし、耳を傾ける」このことを実践している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は「本人の望まれることを後回しにしない」「無理強いはしない」このスタッフ心得を実践し希望に沿った支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の皆さんは起床されたら普段着に着替えされ、メリハリのある生活を送られている、鏡台や化粧道具を居室に置かれたり、また理容美容は訪問理美容を利用されている、本人や家族の希望の店があれば職員がお連れしている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は作るのも、食べるのも楽しみであるので、入居者の皆さんそれぞれ自分に応じた形で参加されている、野菜を刻む人、盛り付けをされる人、配膳をされる人、お箸を揃える人、食べるのみの人、賑やかなひとときでもある、職員1人が毎食一緒に食事をとる(検食)、食欲状況や嚥下状態を見守りつつ楽しい食事を心がけている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好の抑制はしていない、健康状態とのかね合わせが必要な場合は、主治医や家族と相談して本人の望まれる支援を行っている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は一人一人の排泄パターンを把握しており、本人の気持ちを大切にした排泄ケアを行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴も楽しみの一つであり、365日朝から夜まで本人の希望の時間に各々が入浴されている。1人で入浴される方や入浴介助の必要な方々職員が個別に対応している。		

60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中リビングで過ごされたり、居室で過ごされたり、趣味のことをされたり、昼寝をされたり、休息されたり、テレビを見たり、と本人の習慣や趣くままに過ごされている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花を生けたり、テレビの解説をされたり、編み物をされたり、歌を披露されたり、自分の持っているものを自由に表現できるよう、スタッフはその支援を自然の流れの中でおこなっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談しながら、御本人希望あれば、お金をお渡ししている。買い物では、自分で支払いもされている方もおられる。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外散歩やドライブまた外食など本人の希望に沿った配慮や支援を行っている。(スケジュールを組まずその日の希望にそって) 又、お花見や日帰り見物など計画に沿った外出もある。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を組んで、お花見や季節の景色見学や秋のフルーツ狩りや初詣など、家族と一緒に出かけ楽しい時を過ごしている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機をリビングに置いており、自由に電話連絡出来るようにしている。手紙も自由にやり取りを行ない、希望があればスタッフと一緒に手紙を		

		出しに行かれることもある。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	来訪の時間の制限はなく、いつでも、どなたでも会いに来られている。居室で楽しく話しをされたりして過ごされている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、運営者をはじめ管理者・職員は正しく理解している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「さわやかテラス」では鍵はかけておらず、入居者や家族も出入りは自由である、普通の一般家庭と同じである。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーの配慮をしつつ、一人ひとりの見守りを行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の保管・管理は一人ひとりの状況やまたその日の状態によって臨機応変に危険防止の対応をしている		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬、行方不明などに関する知識吸収は社内外の研修会で学び、カンファレンス時に話し合い事故防止に取り組んでいる。又火災や地震を含めた災害に関しては入居者と一緒に訓練を行なっている。		

72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救急対応の講習を受け応急初期対応訓練を積んでいる。防火管理者も2名体制で行なっている		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震の対応訓練を定期的に行って万全を期している。訓練は入居者とスタッフと消防署の合同訓練年2回は実施している。特に夜間時の避難を想定して訓練している。また近所への働きかけも日頃から行っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの身体状況を把握しており、リスクについては家族に説明し家族とともに対応を話し合っている、「あるがままに・楽しく・ゆったりと」暮らせるように。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や表情の変化にいたるまで毎日時間を追って、記録し情報を共有しているので、即刻対応できる体制にある。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用する薬の目的や副作用、用法用量を承知しており、入居者1人ひとりが医師の指示通り服薬できるように支援し、また症状の変化を確認している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の影響を職員はよく承知しており、飲み物や食べ物の工夫をしたり、身体を動かす工夫や、また主治医との連絡も毎日随時できる体制で主治医の意見アドバイスもある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人ひとりの毎食後の口腔状態により対応している、介助が必要な場合、1人でできる場合、力量に応じた支援をしている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスや水分補給は大切なことであり、1人ひとりの体調や習慣も考慮して支援している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者・職員の手洗いやうがいの励行は当然ながら、主治医の指導のもとインフルエンザ予防接種等実行している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の衛生管理は、毎日清潔を保つため消毒をしている。その日の食材は新鮮な物を毎日購入している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠しておらず、家族は自由に出入りされている。近隣の人も普通の家庭を訪ねる如く親しみをもって来られている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、気持ちよくそして居心地よく過ごせるように、空調や採光またテレビ音量等を常に確認し調整を行っている。また季節感を保つため家具調度品や絵や写真パネルなど季節毎に工夫している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士がテレビを見たり、歌を歌ったりされている、リビングにはソファや食席があり独りで		

		も皆なでもゆっくり過ごせるようになっている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使い慣れた好みものがある(家族が持ってこられている)、またそれらのものは、本人が過ごしやすく配置されている。		
番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気と空調は外気温の変化にも対応するように、また入居者の状態に合わせて都度調整を行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下には手摺を設置しており、下肢筋力が低下している方でも自由かつ安全に歩行出来る様にしている。また、入居者の状況に合わせてベッドに手摺を設置し、現在持っておられる身体機能を十分に活かして生活を送れるようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ひとり一人の認知度や身体機能を考慮して接している、認知症があっても「あるがままに・楽しく・ゆったりと」自立して暮らしていけるよう工夫対応している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチを設置しており、自由に外気浴を楽しまれている。また、裏に畑があり野菜の収穫や草取りを楽しまれている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
100	○職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「さわやかテラス」の家訓

「あるがままに、楽しく、ゆったりと」

「さわやかテラス春日」は、閑静な住宅街の中で、ゆったりと生活できる空間にあります。

「さわやかテラス春日」は入居者の一人ひとりが、「住みなれた地域で安心して、健やかに、暮らせるようお手伝いする」ということを基本理念に、その人らしい人生が過ごせる「よりそうケア」を日々行っております。